

学校だより



# くるだ

令和5年6月1日 第3号  
富士宮市立黒田小学校  
富士宮市星山 1030-2  
電話 0544-26-2670

学校教育目標

自分事として学び、共に活動する子

生活即学習・学習即生活

— 子供の作品に学ぶ —

校長 米津 英郎

6年生の廊下の掲示板に、「枕草子」を題材にした子供たちの作品が掲示されています。国語科の学習で「枕草子」について学んだ子供たちが、単元名「私の『枕草子』を書こう」に取り組み、自分の思いを文章で表現しました。全ての作品を拝見しましたが、どの作品も**生活経験を基にして書かれた**ものばかりで、味わいのある作品ばかりでした。ここでは、6年3組の望月琉加さんの作品を紹介します。

私の「枕草子」を書こう

名前 望月 琉加

夏は野菜

カラフルにいろどった野菜たちが食よくをわかせてきて、お腹がすいてくる。まるで、**空から見た家たちのようにカラフル**で、見ているだけですずしくなれる。野菜のにおいは、夏を感じて気持ちがいい。とれたての、**少し土のまじったにおい**がまた野菜らしくて大好きだ。

(※下線と強調文字は米津が装飾したもので、実際の作品にはこれらの装飾はありません。)

今から千年ほど前に活躍していた清少納言さんは「夏は夜」と表現し、今を生きる琉加さんは「夏は野菜」と表現しました。「夏は川」「夏は花火」「夏はキャンプ」等と表現した子供たちもいて、**自由に発想**していることをうれしく思いました。

琉加さんの作品において、私が着目した言葉は「空から見た家たちのようにカラフル」「少し土のまじったにおい」です。前者からは地中海周辺の歴史ある町並みを、後者からは土が付いているじゃがいもや落花生等を手に持っている琉加さんの姿を私は思い浮かべました。と同時に、**生活経験から生まれた言葉には動きがあり、説得力がある**と感じました。

本校の学校教育目標は「自分事として学び、共に活動する子」です。この目標に迫るためには他人事として捉えるのではなく、**自分の生活に引きつけて捉える**必要があります。上述した琉加さんの作品には、そのことがよく表れていました。

大正期に奈良の教育の基礎を築いた林竹次さんは、「生活即学習・学習即生活」という言葉を残し**生活と学習を結び付ける教育**を提唱しました。本校でも生活経験を基にして考えたり、学んだことを生活に生かしたりするよう働き掛けているところです。6月もご協力をお願いします。